

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### 冬を越した生き物たち

佐藤 一枝（千葉市）

日 時：2015年3月15日（日）10：30～12：00

参加者：大人13名 子ども8名

担当指導員：佐藤 一枝・松本 美千代

風はなく、柔らかい日差し。駐車場近くのセイヨウタンポ半開き・オオイヌノフグリも開きました。この小さな花をファール（ネイチャースコープ）で観察。きれいだ！

雄しべが変な形？拡大写真を見ながら、花の作りなどお話する。花の中を見たのは初めてで、びっくりした。タンポポの1つの花も覗きました。

今回は昆虫やクモがどんなところに、どんな形の卵で、冬を越して来たのか探して観察し、幼虫や生態など写真で紹介しながら説明した。

**倉庫裏の紐** 茶色の小袋が下っている。何?? オオトリノフンダマシの卵のうで、秋に小さなクモが出てきて子グモで冬を越す話をする。

**ドウダンツツジの植込み** 葉が落ちているので探しやすいと思ったが、何も見つからなかった。松本さんがオオカマキリの卵（卵のう）を指す。木肌と同じような色をしているのでわからなかったと言っていた。下方にクサグモの仲間の棚網があった。

**林縁** 木の幹にハラビロカマキリの卵のう。クワの幼枝にクワコ（クワゴ）の繭殻が下がり、卵をびっしり産みつけている茶褐色から灰色になっているものもある。アオキ2枚の葉の間にジョロウグモは白い巣をはり、その奥に丸く白い卵のうが見えた。



継続して参加の方は  
**幼虫→クワコ→卵**  
を見ている。初めての方の  
ために写真で紹介した。

トホシテントウの幼虫は  
トゲトゲだよ。アマチャ  
ヅルの葉を食べて大き  
なると教えてくれた。

**谷津田の杭**にチョウセンカマキリ、**朽ちた木の中**にコカマキリの卵のうがあった。

アオキの雄花は蕾が見えています。雌花はまだ閉じています。紅い実は変形。割ってうじ虫探し、アオキミタマバエの幼虫の仕業、虫こぶであることを知らせる。ヤツデの1枚の葉は9～11枚に裂けていたりして8枚は見つからず…それでもヤツデ。花が終わり横に倒れ、世代を譲る・今年の芽が出ているのを見る。タチツボスミレの花を見て、小学生のトリカブトの色だねとの話しかけに耳を傾け、一緒に観察、そしてきれいだねとカメラを向けた。コナラのどんぐりは確り根を伸ばし、芽が伸びているのもあり観察。カントウタンポポも半開き、ロゼットについて話し、地面や葉に手を当て、地面や葉の温もりを体感した。ニホンアカガエルは1cm位の黒いオタマジャクシになっているのを捕まえてカップレンズを覗く。生き物があると子供たちの目が光る…春が待ち遠しい…

\*春一番の草花を愛でる…タネツケバナとナズナが花盛り、お雛様に見立て、雛あられやかき餅を添える。山岸さんの手作りの餡子や黄な粉をまぶしたヨモギ餅もお供えして頂き、春の香が心に沁みた。ぺんぺん草も音色を奏で…何よりの雛祭りでした。

感想：何よりも説明していただいたのでよかった。雛祭りが楽しかった。おいしかった。